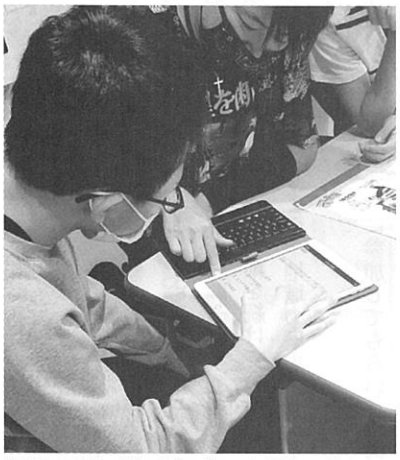
中高生の支援を通じ地域とゆるやかにつながる恩送りの場

東京都町田市　一般社団法人つるかわ子どもこもんず つるかわ無料塾 結い


寄付していただいたタブレット端末、パソコンを活用して学びやすい環境を作っています

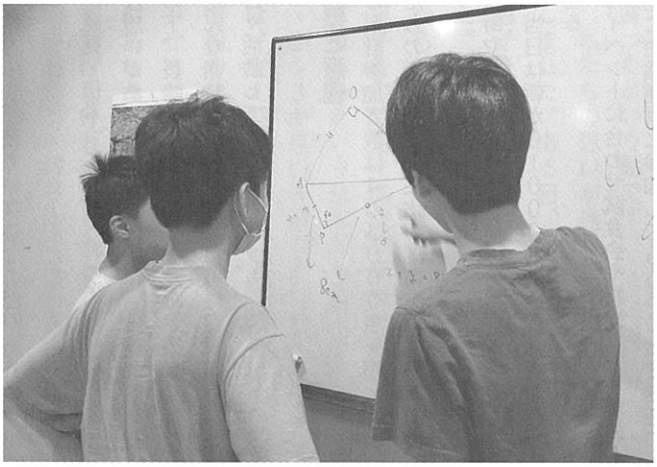
2018年1月から中学生を対象に、通塾に費用のかからない学びの場を始めました。

希望の高校へ入学するためには、学校での学びだけではなく通塾することが必須オプションのようになっているいま、学校以外で学びたくても学ぶことができない子どもたちが、気配を消して地域の中にいることに気づいたからです。

結いの参加条件は「他の有料塾に通っていないこと」のみです。希望の高校入学を目指して毎週水曜日の夜は対面で、毎週木曜日の夜と第2・第4土曜日の夜はオンラインで、いずれも2時間半マンツーマンで補習を続けています。

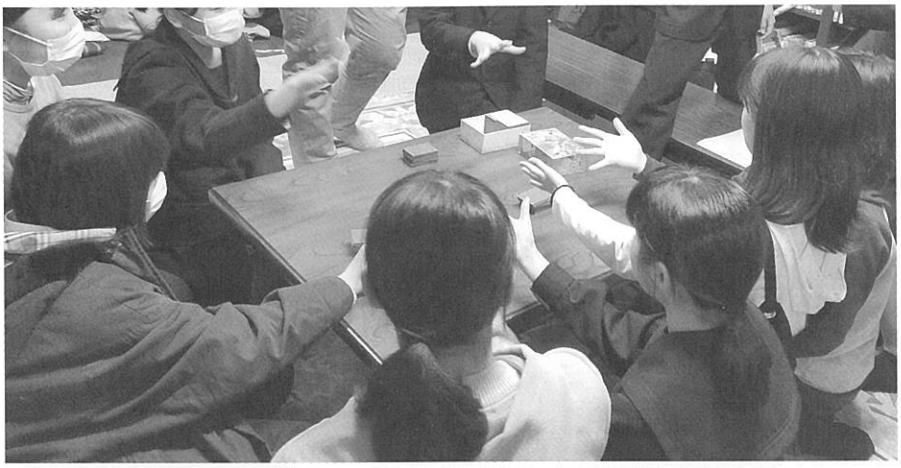
結いのスタッフ、学習サポーターは学生、社会人、高校生と登録は50名を超え、全員が無償のボランティアです。子どもたちが「わかった！」「できた！」「覚えられた！」と学びを獲得していく姿に元気をもらいながら活動を続けています。

結いでは一人ひとりの学習ペースを大切にしています。学習をどんどん進めたい子の担


3人よれば文殊の知恵、どうやっても解けない問題を一生懸命解いています

当は目標に向かって伴走し、学習に配慮を必要とする子の担当へは発達障害等についての専門知識を学ぶ研修や外部プログラム参加の機会を設けています。

また、学校へ行かない選択をしている子どもたちに対しては、今年度から「自由な学び場SOU！」を開始しました。町田市教育委員会が市内全小中学校に配布した「町田市近隣のフリースクール一覧」にも掲載されています。そして今年度から結いの卒業生に限り高校生の補習も始めています。



勉強終わった！さあみんなで気分転換のお楽しみ。坊主めくり、今日は誰が勝つかな？

コロナ禍以前は、学びの場以外のイベントも多数開催し、子どもたちに買い物から調理、片付けまですべてを任せた「Let's GYOZAPARTY」では500個の餃子を手作りして皆で食べました。学習をしているときはいつもおとなしい子どもも、得意分野の料理ではリーダーシップを発揮している姿をみて、一人ひとりが輝く場をさらに作っていこうと決意を新たにしました。

「子どもも！大人も！ いっしょにま・な・ぼ！ 結いの学校」

初年度より結いの子ども、保護者だけでなく、広く地域にも開いた講演会や学習会の場を行い、子どもと地域の大人がつながれる場所をつくっています。

〈開催実績〉

2018年

①「バナナから考える日本の食卓」

②「歴史から見る家族と性」

2019年

「LGBTQ＋って？」

2020年

①「発達障害の子どもたちへの理解と支援 いろんな学びがあったらいいな」 対面とオンラインの同時開催（町田市後援事業）

②「新型コロナウイルスの影響によりオンライン学習を開始した結いの子どもたちと一緒に考える 結いの考えるネットリテラシー講座 Vol.1」（みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田 助成）

2021年

「ライフリテラシーって!?ボードゲームで社会のしくみを知ろう」

「ふだんごはん えん」

日本で相対的貧困の状況にある子どもたちは7人に1人と言われ、コロナ禍がその数字を押し上げていることを日々感じています。スマホを所有し、着衣に汚れもなく、靴がすり切れていることもなく、一見したところ「貧困」とは無縁と思われる子どもが「もうプラスチックのにおいのするごはんは食べたくない」とつぶやいた言葉が忘れられません。コンビニのお弁当ばかりで食事内容が充分でないことを知ったとき、見て見ぬふりはできませんでした。

2018年7月より学習の休憩時間にはおにぎりとお味噌汁の軽食サポートを始め、そ

上）学習の合間のおにぎりとお味噌汁はほっとします。教科書もノートも持ってこなくて、おにぎりを食べるためだけに30分かけて歩いて来る子もいました。来てくれたことがとても嬉しかったです
右）地域の教会の台所をお借りして、子どもたち、卒業生、サポーター、ご近所の方でおなかいっぱい餃子を食べました

れはいつしか「結いの名物」となり、なくてはならないものとなりました。

２０２１年度からは地域の方々も食事サポーターとして加わり、学習支援のとき以外でも食事支援が必要な子たちが立ち寄れる場をあらたに始めています。コロナ感染が落ち着くまでは持ち帰りのみでの提供としています。

「地域とのつながり」

当初は学びの場のみの予定で活動を始めましたが、続けていくうちに子どもたちが安心安全に学べることを第一に考えると家庭背景にも触れざるを得ない場面が増えてきました。社会的養護が必要ではないかと思われるケース、保護者が発達についての理解を深めた方が良いのではと思われるケース、コロナ禍で経済的支援が必要と思われるケースなど、任意団体の活動の範囲を超えたことも持ち込まれるようになり途方にくれました。

そこで初年度から連携のある町田市社会福祉協議会の担当者へ相談し、２０１９年９月からは鶴川地区社会福祉協議会へ加入しました。月１回の専門家が集まる福祉情報交換会にも参加し、情報共有をしてアドバイスを受けています。

このことをきっかけに地元農家さんの農産物やフードバンクの物品をいただけることにもなりました。「ふだんごはん　えん」の食材として利用したり、子どもたちの家庭へと配布もしています。地域のゆるやかな連携が子どもたちの安心安全へとつながっています。

結いの学習サポーターやえんの食事サポーターを始め、地域で見守ってくださる大人たちの後ろ姿を、子どもたちはしっかりと感じてくれているのだと実感した場面がありました。ある日、結いの卒業生が「高校受験までたくさん助けてもらったので何かできることはありませんか」と尋ねてくれ、その後は後輩たちの学習支援に入ってくれるようになりました。

私たちは折に触れ子どもたちに伝えていることがあります。

「してもらって嬉しかったり、あたたかい気持ちになったことがあったなら、今すぐでなくてもいい、いつかどこかで次の人へその気持ちを送ってね。それは恩送りと言うよ」と。

恩送りが巡り巡っていけば、この地域はきっと子どもたちにとって生きやすい場となっていくと信じています。子どもたちが「自分は大切にされていい存在なんだ」という気持ちをしっかりと獲得できるように、これからも地域の皆さんと手を携えて伴走していきます。

（一般社団法人つるかわ子どもこもんず
代表理事　福田有美子）